

白馬グリーンパトロールの新たな取り組み

中信森林管理署 白馬森林事務所 森林官
21年度グリーンパトロール

- よだ なおき依田直紀
- たかおか ゆうだい高岡裕大
- くまが いひで き熊谷秀樹

要旨

当署では、高山植物の保護や登山者への指導啓発活動を目的として、毎年7月中旬から8月下旬までの約40日間白馬岳周辺にて白馬グリーンパトロールを実施しています。通常の業務に加え、今年度は隊員自身が新たな取り組みを提案しました。

はじめに

グリーンパトロールとは、高山植物の保護巡視と登山者への啓発活動を主な目的とする事業で、今年度白馬地区では14名が7月13日から8月27日までの45日間参加し、登山者への啓発活動やゴミ拾い、グリーンロープの設置等を行いました。白馬グリーンパトロールの隊員は通常の業務の合間や余暇を利用してゴミの種類及び量や白馬大雪渓の登山者数の調査などを毎年自主的に記録してきました。(図-1)

白馬グリーンパトロール独自の活動

- ゴミの種類、量の記録**
- 白馬大雪渓登山者の記録**
- 高山植物の開花時期の調査**
- 天候の記録**

これらに加え、今年度新たな取り組みを行ったので紹介します。

(図-1)

1 概要

白馬グリーンパトロールは、中信森林管理署から委託を受けた白馬村振興公社と大町市、白馬村、小谷村で結成された北アルプスを美しくする会との連携により実施されています。

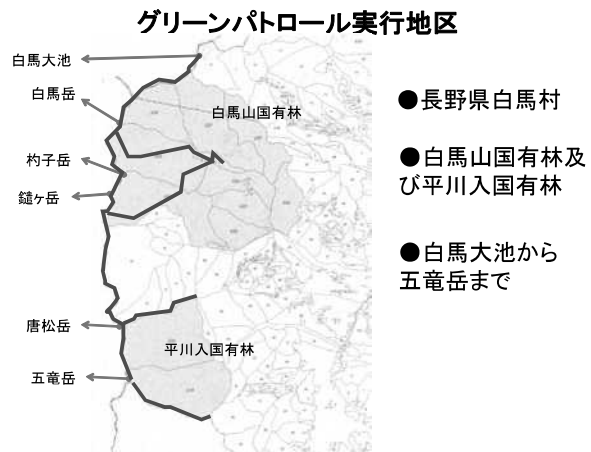
経緯は、昭和45年に大町営林署によりグリーンパトロールが始まり、昭和55年には北アルプスを美しくする会がクリーンパトロールを開始しました。昭和63年に統合し現在の体制になりました。(図-2)

活動範囲は長野県白馬村にあります白馬山国有林及び平川入国有林の内、白馬大池から白馬三山、唐松岳及び五竜岳周辺です。(図-3)

白馬グリーンパトロールの歴史

- 昭和45年 大町営林署によるグリーンパトロール開始
- 昭和55年 「北アルプスを美しくする会」クリーンパトロール活動開始
- 昭和63年 グリーンパトロールとクリーンパトロールが合併(新グリーンパトロール)
- 平成7年 白馬村との連携による委託事業開始

(図-2)

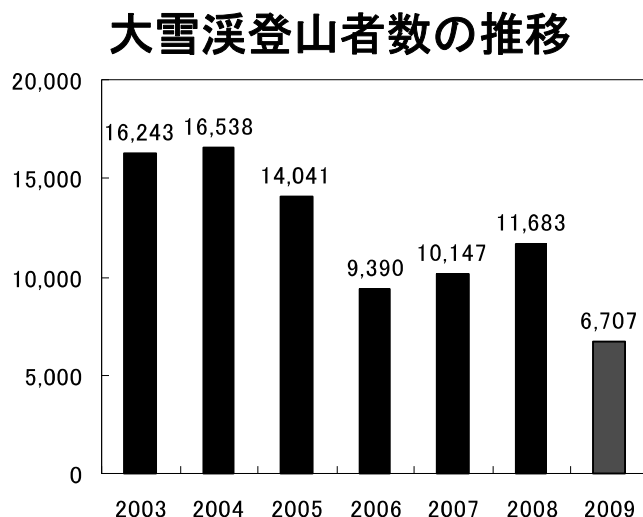


(図-3)

2 活動報告

(1) 白馬大雪渓の登山者数(図-4)

今年度の登山者は 6,707 人と過去にない減少となりました。原因として 2008 年に発生した大雪渓崩落事故が影響したと考えられますが、2009 年は期間中天候の悪い日が続いたことも登山者の減少に拍車をかけた要因と考えます。

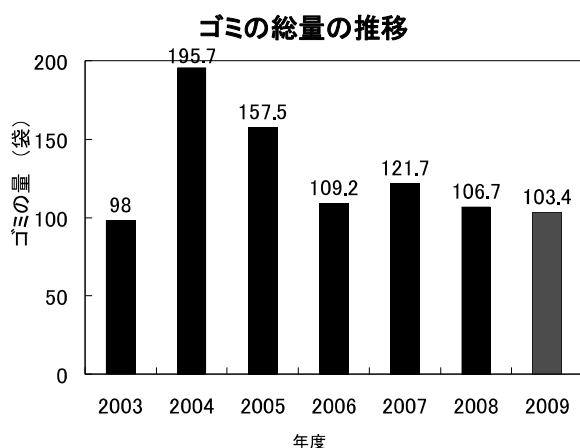


(図-4)

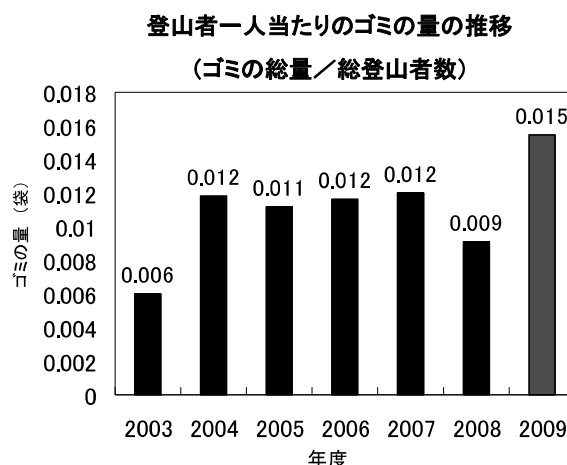
(2) 拾ったゴミの統計

ゴミの量は年々減少していますが(図-5)登山者一人あたりが落とす量に換算すると必ずしも減ってはいません。(図-6)

今後もゴミ拾いを精力的に行うと共に、登山者への啓発活動を続けたいと思います。



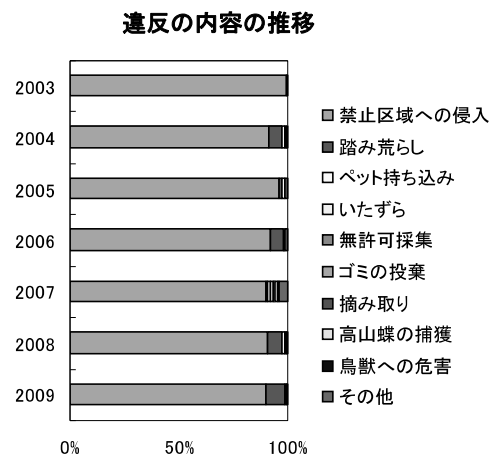
(図-5)



(図-6)

(3) 注意指導数

今年度総指導数は 164 件で、最も多かった 2005 年の 692 件から約 1/4 に減少しています。隊員による巡視や啓発活動の成果が現れたものと考えています。また、最も多い違反は禁止区域への進入で、全体のおよそ 9 割を占めています。



(図-7)

3 新たな取り組み

(1) ガイドウォーク

参加者を募り、高山植物や山岳の説明を行うと共に高山植物の保護やグリーンパトロール事業の意義を PR することを目的として、今年度試験的に実施した野外セミナーです。隊員数名が同行し、講師役を 1 名が務め残りが補助にあたりました。

今年度は 2 回実施し参加者からは高い評価を頂きました。



ガイドウォーク実施風景(写真-1)

(2) 山小屋セミナー

ガイドウォークと目的は同じで、山小屋宿泊者を対象に行ったものです。パソコンやホワイトボードを用いた活動内容や高山植物の説明を期間中 4 回実施しました。

ガイドウォークと山小屋セミナーは参加者から非常に好評で「来年も参加したいのでまた実施してほしい」「グリーンパトロールの必要性が分かった」「これからもがんばってほしい」など継続を望む声が多く寄せられました。通常の業務の合間に準備をしたり、講師役には高い知識が求められるため隊員の負担が大きいといった課題はありますが、グリーンパトロールの PR 効果はもちろん、隊員のスキル向上にも大きく役立ちますので、課題を改善しながら今後も続けていきたいと考えています。



山小屋セミナー実施風景(写真-2)

(3) 花のにおい図鑑の作成

高山植物が美しいことは充分知られておりますが、どんな「におい」がするのか知る人は少ないのではないのでしょうか。植物図鑑を見ても「におい」について書かれているものはあまりありません。

ないなら作ってみよう、という隊員の一言から作成が決まりました。(図-8, 9)においの強弱を 5 段階の花びらで表し、においの種類を花びらで示しました。

また、においの強さに順位をつけてみました。一位はテガタチドリ、ベニバナイチゴ、ミヤマクロユリの三種、もっとも弱いにおいはオオカサモチになりました。(グリーンパトロール調べ)

本書の見方

<p>ウルップソウ</p>  <p>においの強さ ★★★★★ 良い香りがする。生ハツ橋の皮のにおい。下から順に花が咲く。</p> <p>ウルップソウ科 ウルップソウ属 花期 7月-8月 生息地 稜線の岩場、砂礫地</p> <p style="text-align: center;">9</p>	<p style="text-align: center;">植物の名前</p> <p>花が多いほど強いにおいがする。</p> <p>においや花についての説明。</p> <p>植物が生える場所や、花の時期について。これらを参照して探してみよう。</p>
--	--

5

においのつよさ順位

においのつよさ	種名	項
★★★★★	テガタチドリ	— 26
★★★★★	ベニバナイチゴ	— 21
★★★★★	ミヤマクロユリ	— 25
★★★★★	イブキジャコウソウ	— 16
★★★★★	ウルップソウ	— 9
★★★★★	クルマユリ	— 24
★★★★★	コバイケイソウ	— 23
★★★★★	シナノキンバイ	— 14
★★★★★	タカネナデシコ	— 20
★★★★★	ハクサンイチゲ	— 15
★★★★★	ミヤマタンポポ	— 11
★★★★	ハクサンコザクラ	— 13
★★★	オオカサモチ	— 19

6

(図-8)

ハクサンコザクラ



においの強さ ★★★
ラベンダーを薄めた匂いがする。花弁は5枚で、1枚が2つに裂ける為に10枚に見える

サクラソウ科サクラソウ属
花期 7月下旬-8月中旬
生息地 大出原下部花畑、雪融け後

15

イブキジャコウソウ



においの強さ ★★★★★
手で触るとにおいがつく。感じるにおいは人により様々。新しい鉛筆の材木、白檀、マキロン、など。

シソ科イブキジャコウソウ属
花期 7月下旬-8月中旬
生息地 お花畑から稜線の岩場

16

(図-9)

今回はタカネナデシコやウルップソウなど白馬岳に咲く花 18 種を調査し、冊子として取りまとめたところ関係者からおもしろいとの評価をいただきました。

今後は一般の方へ見ていただけることを目標にさらに発展させたいと考えています。

(表-1)

(4)ライチョウと天候の調査

ライチョウは天敵を避けるため天候の悪い日に活動することが名前の由来とされています。巡視中に発見したライチョウと天候を調査し、本当に悪天候時に活動するのか調べました。

期間中 118 回発見し、(表-1)天候の悪い日の発見率は 70 %となりました。(図-10)

この結果ライチョウの活動が実際天気の良い日に多い事が分かりました。

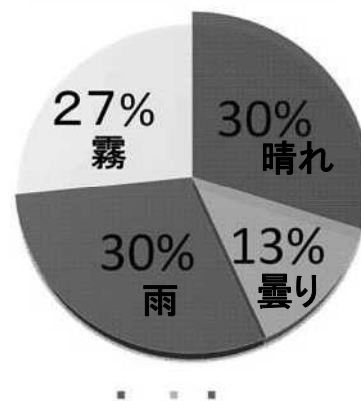
パトロール区域とライチョウ目撃回数

区域	雄(羽)	雌(羽)	ヒナ(羽)	合計
白馬大池～小蓮華山	7	11	16	34
三国境～白馬岳	2	2	0	4
白馬岳～杓子岳	8	11	9	28
お花畑～大雪溪	0	2	6	8
杓子岳～白馬鍵ヶ岳	1	3	3	7
天狗山荘周辺	1	3	6	10
大出原	1	3	6	10
天狗山荘～唐松岳	1	3	5	9
乗鞍岳、雪倉岳	1	2	5	8
合計	22	40	56	118



ライチョウ(写真-3)

天候とライチョウ目撃回数



(図-10)

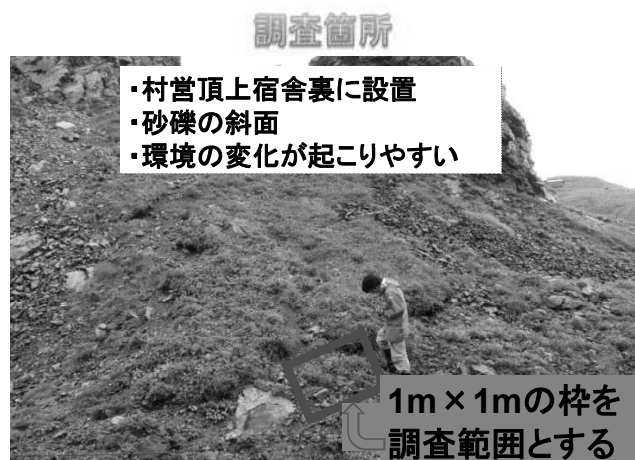
(5)高山植物の定点観測

高山植物の植生を継続的に調査することで経年変化を読み取ることを目的として実施しました。

調査箇所は村営頂上宿舎裏に1m×1mの調査地を1箇所設置しました。(写真-4)同箇所に決定した理由は、土壌は砂礫で緩やかな斜面であり、一部植生があって環境の変化が起こりやすいと考えたためです。

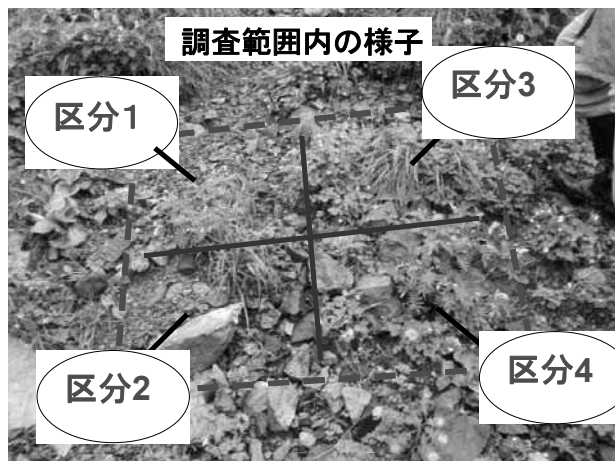
調査地を4区分に分け、各区分での植物の生育を調査しました。(写真-5)

長期観測することにより、貴重な資料となるものと考えています。



調査箇所(写真-4)

(表-2)



調査地内(写真-5)

種名		占有度	種名		占有度	
			種名	占有度		
ミヤマキンバイ イワオウギ	ウルップソウ		ミヤマキンバイ	2	ホソバツメクサ	+
			イワオウギ	2	タカネズメノヒエ	+
			ウルップソウ	1	ムカゴトラノオ	+
			タカネシオガマ、イワベンケイ、シロウマスケ、ミヤマハダザオ、ホソバツメクサ、タカネズメノヒエ、ムカゴトラノオ、オノエリンドウ	+	タカネシオガマ	+
				+	イワベンケイ	
				+	シロウマスケ	
				+	ミヤマハダザオ	

<7月27日>

基準

占有度+ : 僅かしか生育しておらず、面積も微小
 占有度1 : 4個の区分の内、1個に生育が認められる
 占有度2 : 4個の区分の内、2個に生育が認められる
 占有度3 : 4個の区分の内、3個に生育が認められる
 占有度4 : 4個の区分の内、全てに生育が認められる

おわりに

グリーンパトロールは効果が見えにくい事業ではありますが、本発表を見ていただくと着実に成果を上げ、また隊員が常に高い向上心を持って事業に取り組んでいることが分かっていたかと思えます。白馬村、白馬村振興公社、山小屋関係者、白馬グリーンパトロールを支援する会に感謝申し上げます。



平成 21 年度グリーンパトロール(写真-6)



(写真-7)



(写真-8)



(写真-9)



(写真-10)



(写真-11)



(写真-12)

グリーンパトロール活動写真